



2025 年 5 月 27 日

各 位

会 社 名	帝国通信工業株式会社
代表者名	代表取締役社長 羽生 満寿夫 (コード：6763 東証プライム市場)
問合せ先	取締役常務執行役員 丸山 睦雄 (TEL 044-422-3831)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に関するお知らせ（進捗状況）

当社は、2025 年 5 月 27 日開催の取締役会において、2024 年 5 月 14 日に公表した「今中期経営計画の進捗と今後の取組に関するお知らせ」の現状分析および開示後 1 年間の取組みの進捗状況を更新しましたので、お知らせいたします。

内容につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 中期経営計画の進捗（2025 年 5 月 27 日更新版）」をご覧ください。

以上

Together, we make good sense.



資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応
中期経営計画の進捗

未来のNOBLEを見据えて
抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化

2025年5月27日

● 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

中期経営計画の進捗

◆ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

P3

現状認識（株価・PBR・ROE）
企業価値向上に向けた方針
今中期経営計画と長期ビジョン

◆ 中期経営計画の進捗

P6

中長期的な事業成長に向けた基本戦略
成長戦略（基本方針、成長領域の目標、各種施策と研究開発）
財務戦略（目指すBS、キャッシュアロケーション、株主還元）
IR戦略（資本市場との対話）

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 現状認識（株価・PBR・ROE）

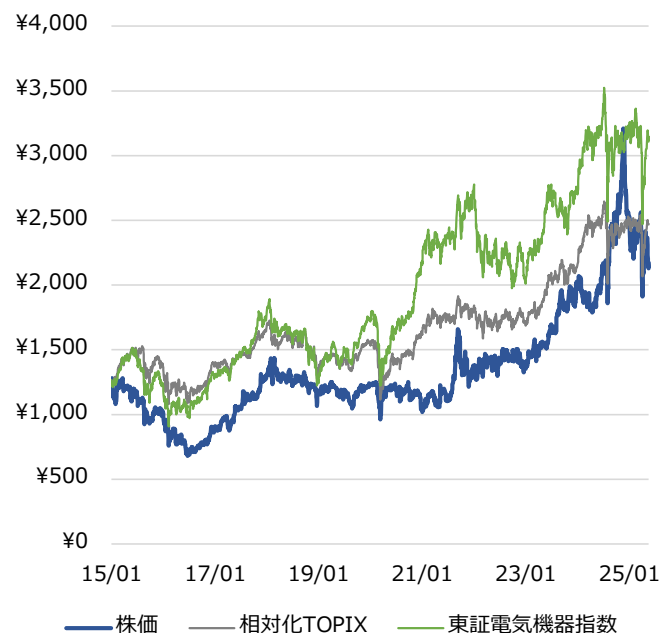
Together, we make good sense.



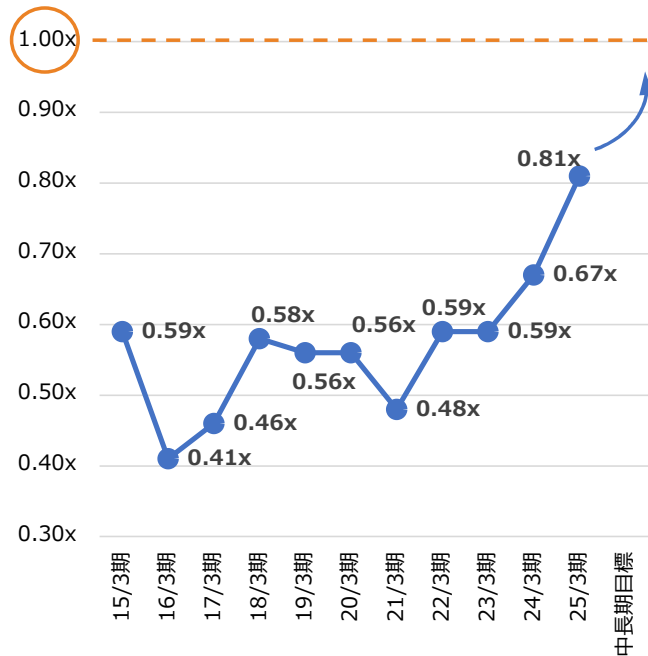
- PBRは1倍を下回って推移しており、企業価値向上に向けた積極的な取り組みが必要な状況と認識
- 株主資本コストを上回るROEを実現すると共に、中長期目標である8.0%達成を目指す

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

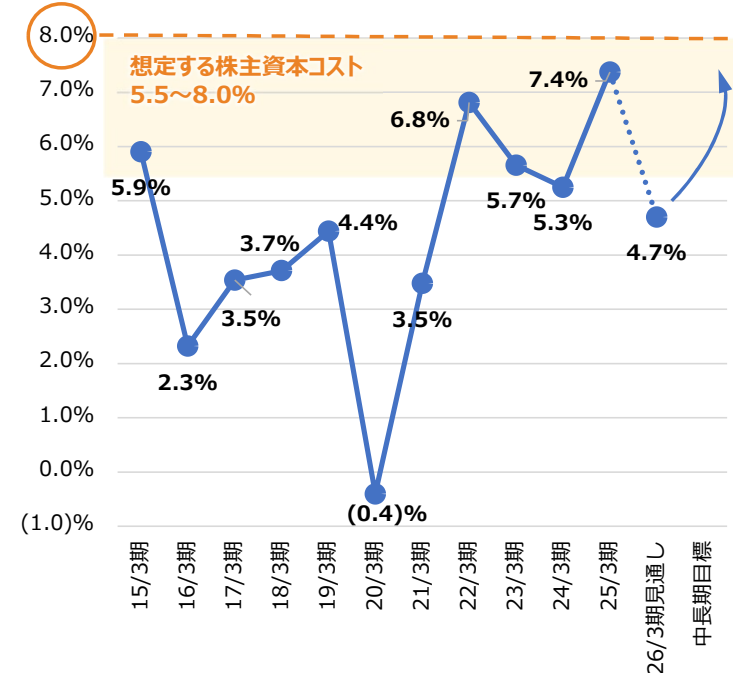
株価



PBR



ROE



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 企業価値向上に向けた方針

Together, we make good sense.



- 資本収益性の向上および市場評価の改善に向けた各施策を実行し、PBRの改善を目指す

現状分析と課題

ROEは投資家が求める
株主資本コストを
下回る

過去10年において
TOPIXを下回る株価水準が続き、
PBRは1倍割れが継続

企業価値向上に向けた対応の方向性

資本収益性
の向上
(ROE)

収益力の
向上



資本の
最適化



市場評価の
改善
(PER)

マルチプル
向上

成長戦略

- ・ エlement技術の向上による医療・ヘルスケア分野向けの技術確立
- ・ 新事業分野への進出(インフラ・ウォータービジネス・アグリビジネス等)
- ・ 電気自動車・周辺機器向けへの拡販
- ・ 出資・M&Aの引き続きの検討

財務戦略

- ・ 中長期的に目指す純資産の水準も踏まえたバランスシートマネジメントの検討
- ・ 安定配当の実現（自己株式取得の継続検討）

IR戦略

- ・ 積極的な情報開示による資本市場との対話拡充
- ・ 英文開示義務化への対応
- ・ サステナビリティへの取り組み拡充
- ・ 人材開発（経営幹部候補の育成 等）
- ・ 採用力の強化 等

エクイティ
スプレッドの
拡大によって
PBRの改善を
目指す

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 今中期経営計画と長期ビジョン

Together, we make good sense.



- 今中期経営計画のStep3では「新領域の拡大」に向け、医療・ヘルスケア等における成長戦略を実行
- また、さらなる資本効率の改善を行い、中長期的には株主資本コストを上回るROE8.0%の達成を目指していく

経営ビジョンと今中期経営計画の位置づけ

当社のありたい姿：抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化

中期経営計画（FY2021～2025）

次期中期経営計画（FY2026～）

Step 1

既存領域の拡大 (FY2021)

- コア事業を活かした2事業の拡大
 - ・ カスタムブランドであるICB製品
 - ・ 汎用電子部品

Step 2

新領域等への投資 (FY2022～2023)

- エレメント技術による新市場展開
 - ・ EVおよび周辺機器向けの拡販
- インフラ投資の実行
- 自己株式の消去および取得（5億円）による資本効率化

Step 3

新領域の拡大 (FY2024～2025)

- 医療ヘルスケア・新領域における成長戦略の実行
- さらなる資本効率の改善
(25/3期自己株式の取得 3億円)

営業利益

ROE

17億円

6.8%

2022/3期

16億円

5.7%

2023/3期

9億円

5.3%

2024/3期

17億円

7.4%

2025/3期

15億円

4.7%

2026/3期見通し

中長期目標
ROE
8.0%

中長期的な事業成長に向けた基本戦略

- 今中期経営計画では中長期的な成長に向けた、基盤構築を行うべく、既存領域の拡大・新領域の模索および研究開発の深化に注力
- 次期中期経営計画では、模索した基盤を軸にした、さらなる収益力の向上を目指す方針

中長期的な成長に向けた基本戦略

今中期経営計画での取り組み

1 既存領域の拡大

既存業界への製品の横展開を目指す

- セメント抵抗の拡販
✓ 省エネ分野（インバーター）、EV分野（車載・急速充電器）
- 医療・ヘルスケア分野の横展開によるセンサーの売上拡大
- ソフト（回路）の拡充による既存顧客への売上拡大

2 顧客ニーズを捉えた新製品展開

顧客業界のニーズ・トレンドを捉えた新製品開発

- 非接触スイッチ×産業機械（例：エレベーター）
- ポジションセンサー×自動車（例：アクチュエーター）
- 非接触ポジションセンサー×産業機械（例：サーボモーター）

3 新領域の確立（チャレンジ分野）

環境の変化に合わせた新製品開発による新市場への展開を目指す

- トrend分野への展開
✓ 5Gに関連した、通信・公共分野への参入
- 社会課題解決への貢献
✓ MEMSなど新領域の医療・ヘルスケア分野、介護分野への参入

既存領域の拡大・新領域の模索

- コア技術の活用による新製品開発
✓ 非接触スイッチ等の開発
- 新技術領域の構築
✓ ソフト・回路・微細加工領域の構築
- 販売力、マーケット拡販の強化
✓ 新規営業・提案型営業の強化
- 品質の向上
✓ 求められる品質基準への対応
- 生産性・付加価値の向上

環境に配慮した要素技術開発の深化（研究開発活動の方針）

- 通信関連やインフラ等の新規市場への展開
✓ スクリーン印刷技術や部品実装技術を生かしたフレキシブルなIoTデバイス等の開発
- 医療・ヘルスケア分野におけるPOCT(Point of Care Testing)への注力
✓ 様々な物質測定に使用が見込まれる「電気化学センサー」の技術確立

次期中期経営計画

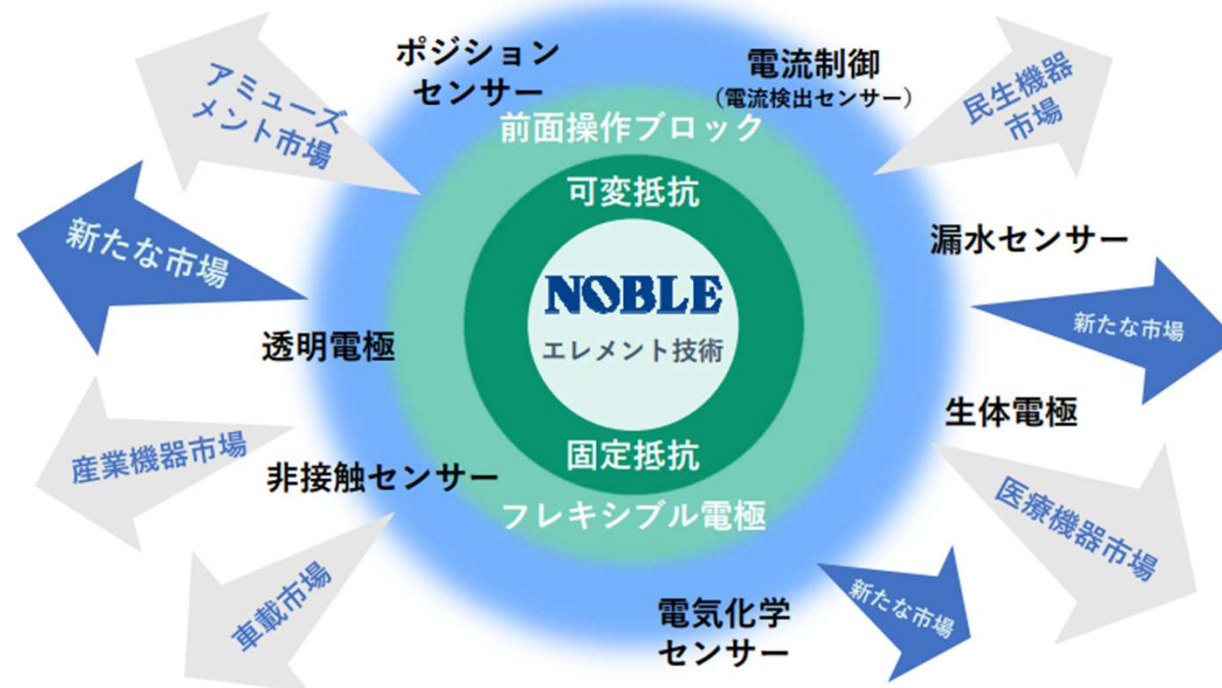
今中期経営計画での取り組みの強化とさらなる収益力の向上を目指す

成長戦略における基本方針

- 創業より抵抗器製造で培った当社独自のエレメント技術を基礎として、多様なセンサーに展開することで、新製品開発および新規市場への展開を行う

エレメント技術で 既存市場から 新市場への展開

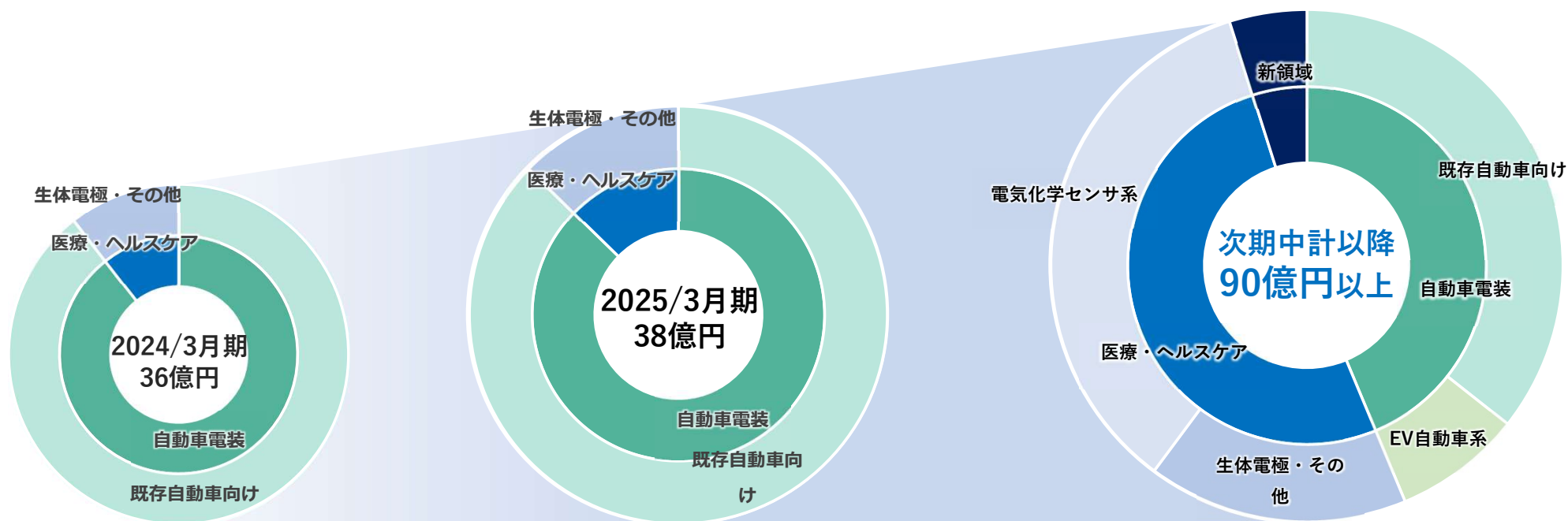
エレメント技術をベースに
80年の歴史を育む
NOBLEのセンサーで
社会に貢献し続けます。



次期中期経営計画以降の成長領域の目標

- エレメント技術を基に、自動車電装／医療・ヘルスケアなどの新領域での成長を加速させる

自動車電装・医療ヘルスケア・新領域で目指す規模



事業成長に向けた設備投資の拡充

- 新市場への展開に向け、高度化・多様化するお客様ニーズに応えるべく環境に配慮した「モノづくり」体制の高度化を行う

赤穂工場



生産工場への積極的な投資

- ・ 新市場へ向けた新棟建設
- ・ クリーン環境での生産体制
- ・ 独自印刷技術のさらなる高度化
- ・ 品質管理体制の強化

エレメント技術の深化

- ・ 新たな市場への展開
- ・ 医療・ヘルスケア市場の拡大
- ・ アミューズメント市場の拡大
- ・ 高性能、高寿命、高品質のレベルアップ

自動車分野

自動車市場における
EV化への対応

医療・ヘルスケア分野

健康増進に向けた
予防医療への対応

チャレンジ分野

防災等社会課題解決に向けた
インフラビジネスへの対応

自動車分野における取り組み

ドアミラー
センサー

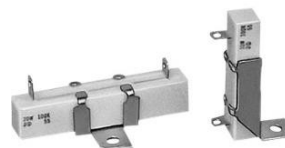
HVCA
アクチュエーター
センサー

プリチャージ・
ディスチャージ
抵抗

車載向け透明電極シート

シェア拡大を目指す

新たな挑戦
透明電極タッチSWの車載仕様化



印刷技術向上による、自動車電装向け仕様のセンサー開発
EV車や充電器等周辺機器向け抵抗器の開発加速

生体用電極向けスクリーン印刷シートの拡充

電極用 インクの 開発

- 心電用生体電極・節電用生体電極から、脳波測定用生体電極へ技術革新を図る
- 幼児・小児用脳波測定生体電極の開発を進める

当社脳波測定用生体電極



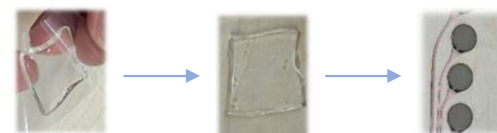
高機能 ゲルの 開発

- 汗や入浴など、水のある環境でも接着力が低下しない機能性の導電ゲルを大学と共同研究を進める

開発目標

- 生物の持つ機能を活用し、機能発現を目指す
- 装着感の向上を目指す
- ゲルを用いることでの製品における部品点数削減
- 内製化によるコスト削減
- 弊社生体電極の付加価値向上

当社製品への
電極部に塗布



株式会社ファーストスクリーニング様との共同開発



ナトリウム比：尿中における、高血圧の原因となるナトリウムとナトリウムの排出を促すカリウムのバランスを表す指標

● 尿中ナトリウム比測定器

- ✓ 尿中に含まれるナトリウム比を継続的に測定することで体の状態を知ることができ、食生活改善のきっかけづくりに役立つ

簡単

スティックの先端に尿をかけるだけで測定が可能

清潔

尿をかけるスティック部分は毎回使い捨てのため、センサー本体は清潔さを保つことが可能

即判定

測定開始後およそ20秒で液晶表示機に結果をお知らせ

*株式会社ファーストスクリーニング

2018年創業のスタートアップ企業。未病の早期発見を目指し、尿や唾液や血液を使った、非浸襲センサーによる、セルフ検診サービスを展開。スマホで簡単に結果確認ができ、日常の健康管理を支援します。

IoTを活用した漏水センサの開発

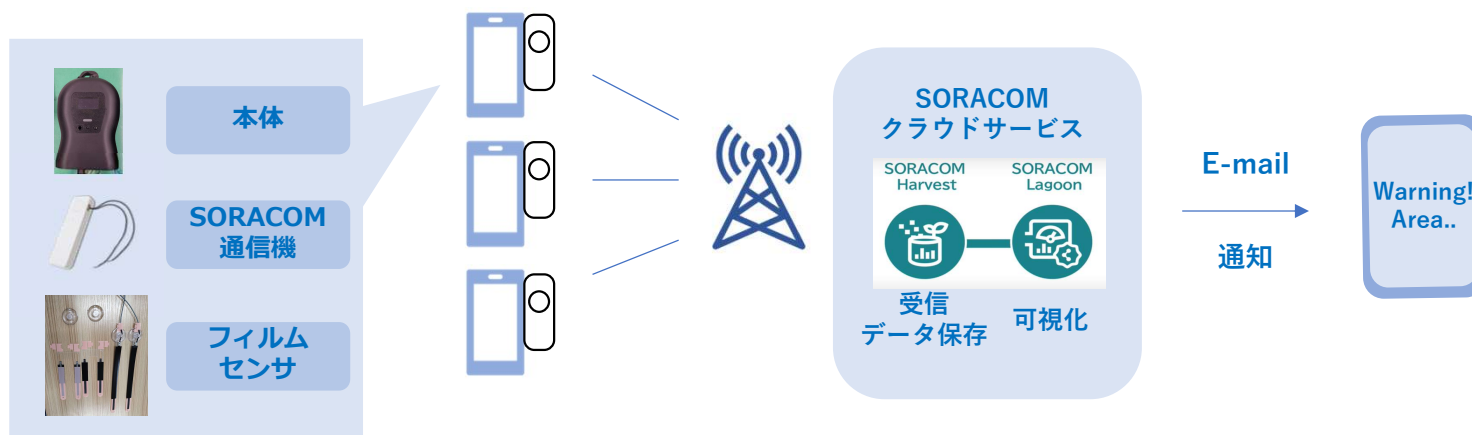
技術概要

● 漏水センサ

- ✓ IoTを活用した見守りの一環として、水の有無を検知する装置を開発
- ✓ 通信機と組み合わせることで離れていても通知を受け取ることが可能

技術特徴

- ①設置の自由度が高く、フィルムセンサの為、加工や取換えが容易
- ②印刷技術を使用した金属レス電極
- ③LTE通信によりセキュリティが高く安心安全な製品



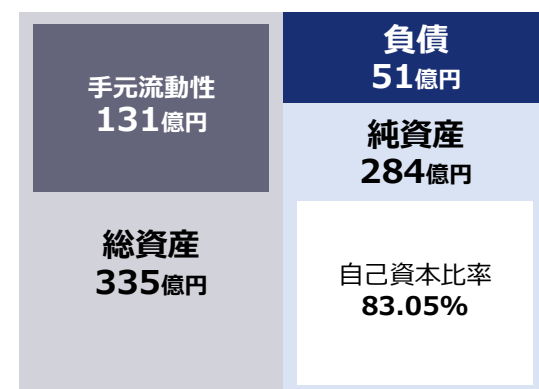
目指すべきバランスシート

- 資本収益性と財務健全性を両立した適切なB/Sコントロールを実施
- 自己株式取得の追加検討など、株主還元を通じた純資産の増加抑制にも取り組む方針

目指すバランスシートのイメージ

2025/3期 実績

- ・ 純資産増加
- ・ 自己株式取得の実施



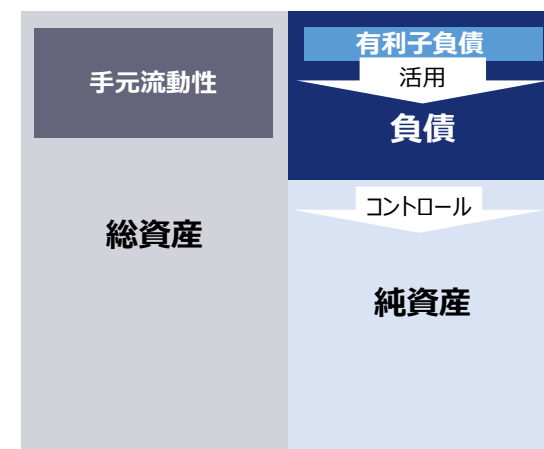
2026/3期 中計最終年度

- ・ 自己株式取得の追加検討
- ・ 資本収益性のさらなる向上を図る



中長期的に目指すBS

- ・ 有利子負債の残高をコントロールしつつ、財務健全性を優先
- ・ 株主還元を通じた純資産の増加抑制等にも取り組む方針



キャッシュアロケーション

- 将来の成長に必要な投資を優先的に実施することで、利益の増大や安定的かつ継続的な株主還元の実施による、中長期的な株価上昇を目指す

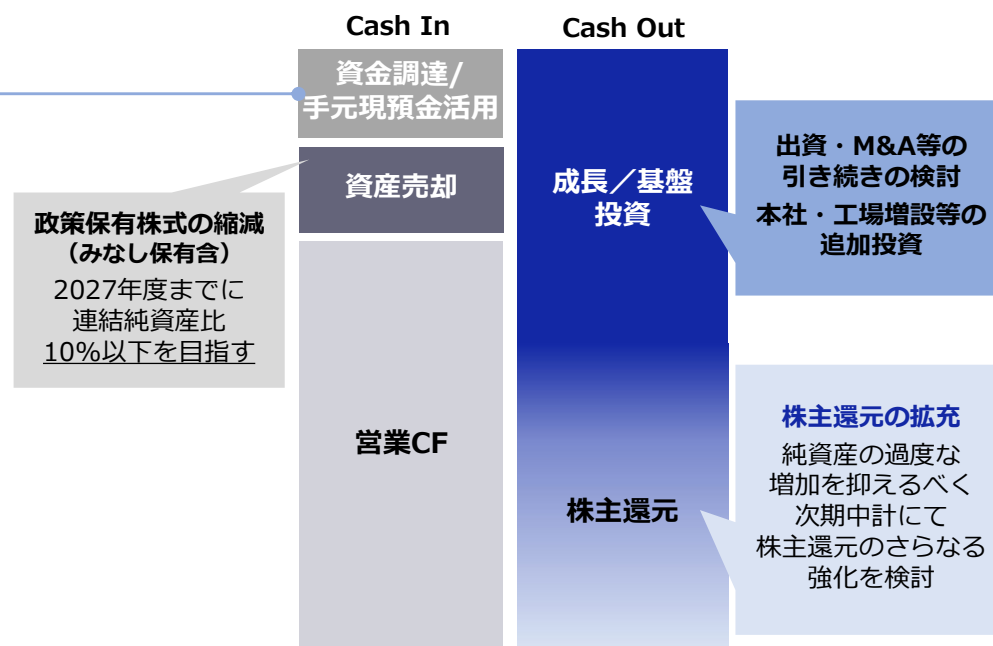
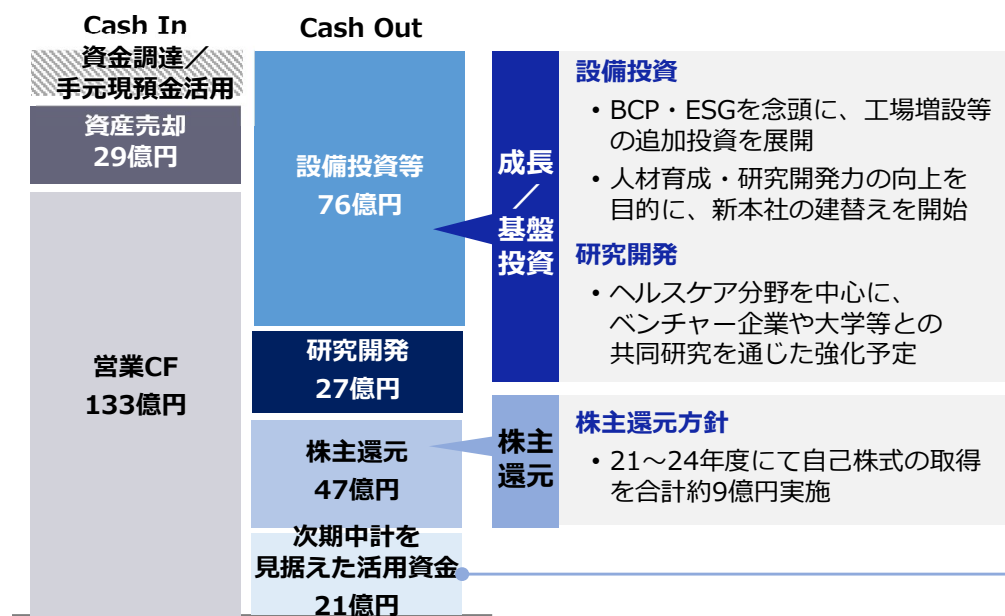
キャッシュアロケーション

今中期経営計画
(2021年度～2025年度 累計)



次期中期経営計画
(2026年度～)

将来的な成長につながる投資と株主還元の充実による資本効率を重視し、次期中期経営計画に向け検討

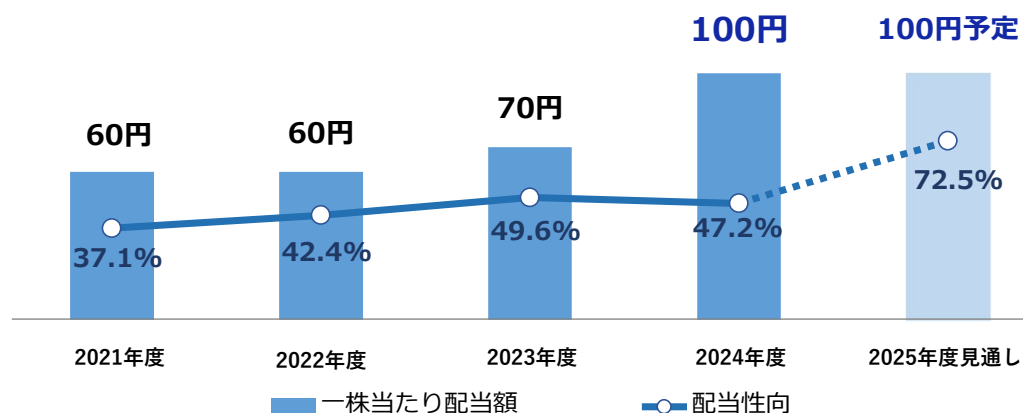


- 財務健全性や必要投資とのバランスを考慮の上、資本効率を意識した株主還元を実施

株主還元方針

配当実績

- 業績に応じた配当を継続的に行うことを基本に、投資や財政状況等を総合的に勘案しながら、積極的に株主に利益還元する方針
- 2024年度は当社創立80周年の年であり、普通配当70円（中間35円・期末35円）に加えて記念配当30円を予定し、1株あたり100円（中間50円・期末50円）を実施
- 2025年度においても1株あたり100円を維持予定



配当方針

次期中期経営計画期間

純資産の過度な増加を抑えるべく
次期中期経営計画にて
株主還元方針の見直しを予定

連結配当性向
50%以上目安

2026年度

中期経営計画の進捗 – IR戦略 資本市場との対話



● 英文開示への対応をはじめとしたIR活動の継続的強化を実施

✓ 下表に記載事項は、実施済み、継続予定

IR活動内容	頻度	対応時期	実施／予定
中期経営計画開示	5カ年計画	2021年5月11日開示 2022年5月11日修正版開示	実施・継続
中期経営計画英文開示	5カ年計画	2022年5月11日より実施	実施・継続
決算説明資料開示	毎四半期	2021年3月期末決算より実施	実施・継続
決算説明資料英文開示	毎四半期	2021年3月期末決算より実施	実施・継続
新聞・業界紙・IR専門誌等への 広告掲載など	適時	JR品川駅・新横浜駅にサインボードとして広告を掲示 日経新聞、電波新聞等にインタビュー記事掲載 ダイヤモンドZAi24年10月号掲載	実施・継続
各種展示会出展など	随時	Medtec Japan2024、FBCSASEAN2024、Taiwan Innotech Expo2024等国内外の展示会に出展	実施・継続
アナリスト向け決算説明会開催	毎半期	毎年、6月・12月頃	実施・継続
アナリスト向けIRミーティング	随時		実施・継続
個人投資家向けIR戦略	随時	個人投資家向け説明会2022年より実施（24年9月開催） 野村IR会員向け「トップの素顔」「IRレポート」掲示	実施・継続
新スローガン作成	随時	創業80周年に向けて企業スローガンを策定	実施・継続
資本提携等発表	随時	2021年に（株）S'UIMINと資本提携	実施・継続
成長戦略開示	－	今中期経営計画の進捗と今後の取組に関するお知らせ	2024年5月
機関投資家向けSR面談	適時	2025年1月に実施	実施・継続
80周年誌刊行	－	ダイヤモンド・ビジネス企画社より発刊	2025年1月

創業80周年に向けた新スローガン

さあ、NOBLEを実現しよう。

Together, we make good sense.

NOBLE

帝国通信工業株式会社

「NOBLE WAY」

“構想力”
アイデア・開発設計・技術転用

“実務力”
製品化・安価生産・高精密品質

独自技術により商品を開発

一貫生産により量産を実現

とどまることのない
革新の80年、
最先端を支える
生産革新の歴史

**80年
続いて
きた
革新**

自動車、電化製品
最新鋭一眼レフカメラ。
日本で生まれた
世界の大ヒット商品を
支えている企業、
それが帝国通信工業だ。

帝国通信工業・著

**2025年1月に
ダイヤモンド社より
発売開始**

誰にも見えないところで、
本当の革新は続いている。

Memo

Together, we make good sense.



Together, we make good sense.



お問合せ先： 帝国通信工業株式会社
経理室
TEL: 044-422-3831
E-Mail: ir-info@ho.noble-j.co.jp
URL: <https://www.noble-j.co.jp/>

本資料に記載されている将来の業績見通し及び予測につきましては資料作成時点における当社の判断によるものであり、外部環境の変化に伴う潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。そのため、様々な要因による経営環境の変化に伴い、実績が本資料に記載された見通し等と大きく異なる可能性があります。